〔巻頭言〕

なぜ、看護実践研究はおもしろいのか

岐阜県立看護大学　学長　黒江ゆり子

看護学は実践を基盤として発展を遂げた学問の一つであり、その実践活動は、一人ひとりの健康な生活に向けた支援が中軸となっている。一人ひとりの健康な生活は、その人の生き方、他者との関係性、そしてその時々の思い等、生活におけるさまざまな事柄と繋がっているため、その支援は当然ながら多様で複雑なものとなる。

○本質的なおもしろさ

「*実践活動は厳密に同じことが二度と起こらず、完全な確実性などありえないような個別的で一度限りの状況を扱う*」というJ. デューイ*①による実践についての指摘は、看護実践を含む実践活動の不確実性と力動性と複雑性を示し、

「*実践の＜わざartistry＞は、膨大な情報を選別して管理する能力、ひらめきと推論の長い道筋を紡ぎ出す能力、探究の流れを中断することなしに同時に複数のものの見方を保つ能力として見ることができる*」というDA. ショーン*②の指摘は、まさに実践に必要とされる豊かで的確な質の高い力を示し、看護職を含む実践者の潜在能力の深さを示している。それゆえ、実践者でなければできない研究の意義深さは、新たな知識の創生において計り知れない可能性が包摂され、だからこそ、実践研究は本質的におもしろいのである。

本学は平成12年に開学し、看護実践を基盤とした教育・研究を通して看護実践の改善改革を実現できる人材の育成を目指している。平成16年には大学院を開設し、博士前期課程及び後期課程では、実践現場・教育現場において看護実践研究を指導できる人材の育成が続けられている。これまで修められた学位論文は180以上に至り、本学紀要・関連学術誌における公表を通し、教育研究活動の実績として堅実に積み重ねられている。

○第３ステージという今

看護実践研究は、発展プロセスの第三ステージに至っている。第一ステージは、実践現場の実践者が自ら研究者となり（実践者＝研究者）、‘研究者自身の実践活動での研究であること’、‘実践活動から知識を産生する研究であること’及び‘省察と改善・変容を繰り返すこと’という実践研究の特性*③をふまえ、自施設あるいは自部署で研究を推進し、それらの取り組みを丁寧に著していく段階であった。1年に10篇以上の研究論文が生成されている。

第二ステージは、学術誌等での公表を推進し、看護実践研究の特性を明確化する段階であった。修士の学位取得者と主指導者が共同執筆というかたちで紀要への掲載が可能となり、また博士の学位取得者の単著での論文が同時に公表され、看護実践研究がその姿を続々と現し、看護実践研究の特性を明らかに記述することが可能になった段階である。

そして、現在の第三ステージは、看護実践研究の特性についての深化と検証、及び理論基盤・哲学基盤を構築する段階である。実践研究の基本的考え方、大学院における実践研究指導の特性、及び実践研究の哲学的基盤の試論はすでに公表されている。これから取り組むべきことは、看護の専門領域ごとの実践研究の特性の明確化と深化、それを通して看護実践研究の特性を検証することである。それは、看護実践研究の現状・課題を明確化し、次の段階に進むためでもある。各領域独自の現状分析、方策の開発・実施プロセス、協働研究体制の構築等における特性を諸論文から分析し検証しなければならない。

○おもしろさの全容を紀要に映す

それは、私たちが感じている「なぜ、看護実践研究はおもしろいのか」という問いに、論理的に答える素地を創生することでもある。そのため、博士の学位論文の実践研究の公表は、研究の全体構成、現状分析等の独自性、新たな方策の開発・試行・成果に加え、看護哲学にどのように迫ったか、辿り着いた看護の在り方が著されることが不可欠となる。これらを満たす公表方法の構築が重要であり、それは論文を分断するものであってはならない。看護実践研究は３年間以上という時間のなかで続けられ

るものであり、価値はそこにもある。実践研究の全容を映す優れた公表方法の構築により、実践の改革改善を可能にする研究論文の在り方、及び実践の改革改善を目指す看護職が取り組むべき研究活動の在り方が明らかになる。それは、看護学の発展及び看護哲学の深化に繋がる。

○そうして、自己に実践研究を位置づける

2040年に向けた新たなスタートに立っている。自らの深い洞察を通してこそ、自己のなかに看護実践研究を位置づけることができる。本学の教育・研究に携わっている私たちがそれに取り組むことによって、本学の使命である「県の看護の質向上に高等教育機関として寄与する」あるいは「看護実践を改善・改革する人材の育成」が確実なものとなり、看護実践に有用な研究の姿を目のあたりにすることができると考える。

＊① J. デューイ（2018）. 加賀裕郎訳. デューイ著作集4　確実性の探求. 東京大学出版会.

＊② DA. ショーン（2007）. 柳沢昌一・三輪建二訳. 省察的実践とは何か. 鳳書房.

＊③黒江ゆり子, 大川眞智子, 茂本咲子.（2020）. 看護実践研究の哲学的基盤についての試論. 岐阜県立看護大学紀要, 20(1), 99-106.